

# 記念シンポジウム 併設展示報告

椎塚久雄

工学院大学情報学部  
shiizuka@cc.kogakuin.ac.jp

## 展示の基本方針

学会創立45周年記念シンポジウム併設展示は、平成18年3月7～9日にわたり工学院大学新宿キャンパスで開催され成功裏のうちに終了した。この併設展示のワーキンググループは、企業、大学および博物館関係からなるメンバで構成され毎回の委員会およびメール審議では活発な議論が展開された。

まず、前回(40周年)と今回(45周年)の併設展示の最も大きく異なるところは、前回の併設展示では、1,000万円をかけて55点の展示があったが、今回は前回の1/5の予算(200万円)でやらなければならない、委員会ではいかにすれば制約条件下での最適戦略を打ち立てられるかに焦点が絞られた。つまり、厳しい制約条件下で最も効果の期待できる展示法について議論した結果、展示の内容は次の4つに決定された：①実物展示、②日本のコンピュータ年表、③大画面ディスプレイ、④パソコンによるコンピュータ博物館の閲覧。

## 実物展示

最初、現物展示として候補になったのは、1960年に東京大学で開発された大型高速のパラメトロン計算機PC-2<sup>1)</sup>、日本で最初のトランジスタ式電子計算機Mark IIIの後継機として1959年に開発されたETL-Mark IV A<sup>2)</sup>、および1956年に開発された真空管式計数型電子計算機FUJIC<sup>3)</sup>の3点であった。いずれも国立科学博

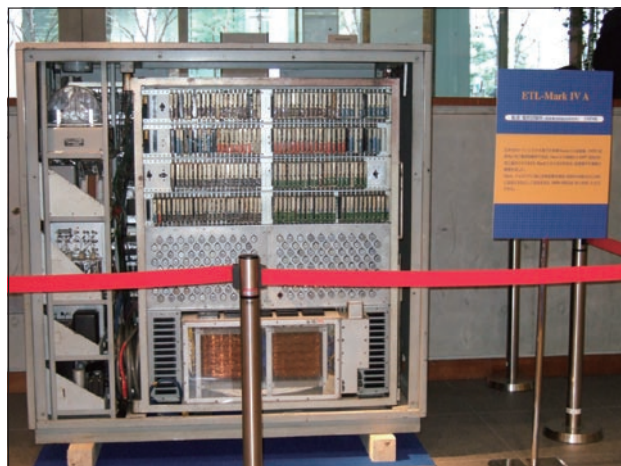


図-1 トランジスタ式計算機 ETL-Mark IV A

物館から借用するものである。しかし、その後具体的な運搬・設置方法を運送業者と協議していく中で、重さ2.5tのPC-2を運搬し、それを会場に設置するには会場の床耐荷重が問題となり、結局PC-2の現物展示は断念せざるを得なくなった。さらに、諸事情によりFUJICは等倍写真を展示することになった。

以上のことから、会場への現物展示は次の2点に絞られた。

- (1) トランジスタ式計算機 ETL-Mark IV A / 製造：電気試験所(1959年)  
重さ 800kg, 縦 1,800 × 横 1,000 × 高さ 2,500 (mm)
- (2) 座席予約システム MARS101 / 製造：日立・国鉄(1964年)  
縦 850 × 横 900 × 高さ 2,000 (mm)

50周年記念シンポジウム開催前日の3月6日にこれら2つの実物の会場への搬入が行われた。筆者は現地責任者として固唾をのんで見守っていたが見事指定された場所に収まった(図-1、図-2)。



図-2 座席予約システム MARS101

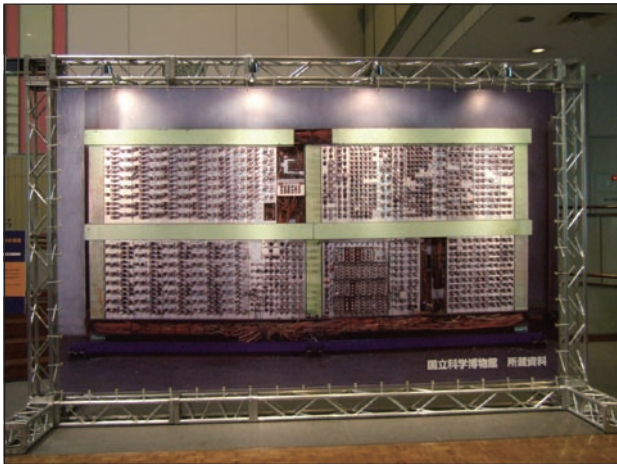


図-3 FUJIC の等倍写真



図-4 日本のコンピュータ年表

FUJIC は等倍写真を展示することになったが、いざ現場でその等倍写真を見て筆者は大変驚いた。最初見たときに本物と錯覚するくらいに、この写真は実によくできているのに感心した(図-3)。これは恐らく実際に現地で見ても筆者と同じように感じたのではないかと思う。

### 日本のコンピュータ年表

今回の併設展示ワーキンググループの最大の出し物は、「日本のコンピュータ年表」であろう(図-4)。各委員の努力の結晶が見事にこの年表に表現されている。年表の内容の検討からレイアウトに至るまで何回もの議論を重ねて完成されたものである。1950年から10年のスパンで今日に至るまで、「黎明期」「ミニコンピュータ」「オフィスコンピュータ」「PCサーバ」「パーソナルコンピュータ」「海外(代表的なもの)」の6部門に分けて表している(表-1)。特に、この年表を作成するにあたって、学会Webページのコンピュータ博物館に掲載されている1990年以前を見直すとともに、1990年以降が新規に追加されている。

### 大画面ディスプレイ

現物以外の機器の展示方法として、年表とリンクさせるかたちで、1950年代、1960年代、1970年代、1980年代、1990年代、2000年代と10年ごとに代表的な機器のライドショーを6台の大画面ディスプレイによっ

て流すかたちをとった(図-5、図-6)。その総数は185機種であり、これだけの実物を一堂に展示することは諸条件から困難であり、今回はITを駆使することでうまく実現している。

各年代のライドショーに収められた内容は次のとおりである。

**1950年代(13機種)**: ENIAC型演算装置, ETL Mark I 試作機, FACOM 100, ETL Mark II, FUJIC, ETL Mark III, ETL Mark IV, MUSASHINO-1, HIPAC MK-1, NEAC-2201, PC-1, TAC, ETL Mark IV A.

**1960年代(24機種)**: MARS-1, MELCOM1101, PC-2, FACOM 222, OKITAC 5090, KT-Pilot, TUC, NEAC-1201, USAC 3010, HITAC 5020, TOSBAC-3400, MARS-101, FACOM 230 シリーズ, NEAC 2200 シリーズ, HITAC 8000 シリーズ, MELCOM-3100 シリーズ, DIPS-0, OUK 9000 シリーズ, MELCOM-81, HITAC 10, FACOM R, NEAC M4, OKITAC-4300, MACC-7.

**1970年代(27機種)**: TOSBAC-5600 シリーズ, HITAC-1, DIPS-1, MELCOM 70, TOSBAC-1350, NEAC システム 100, COSMO シリーズ, ACOS シリーズ, HITAC M シリーズ, FACOM M シリーズ, FACOM V<sub>0</sub>, DIPS-11/10 シリーズ, USAC 820, TK-80, TOSBAC-7/70, FACOM 230-75APU, TOSBAC 漢字システム 15, TOSBAC DP/6, NEAC システム 150, HITAC M-180IAP, ベーシックマスター MB-6880, PC MZ-80K, DIPS-11/5 シリーズ,

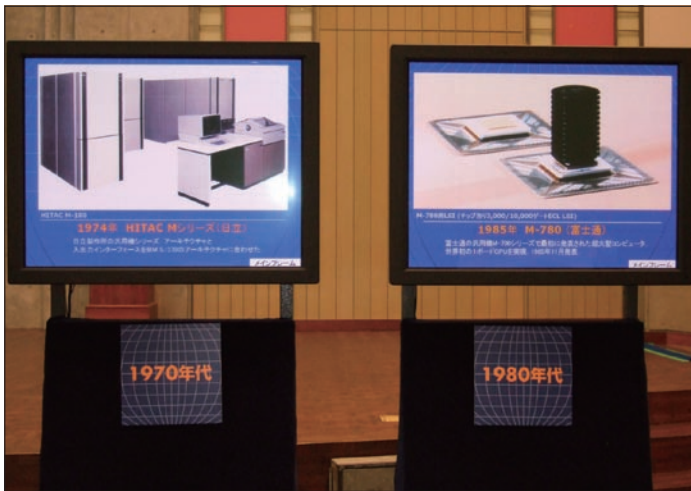
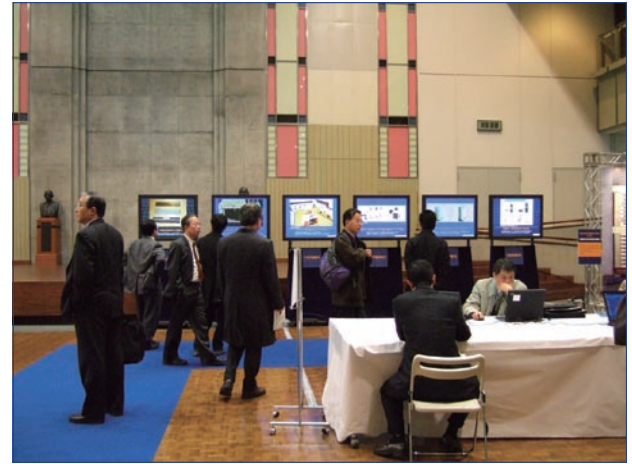


図-5 各年代のスライドショー

図-6 スライドショーの大型ディスプレイ（正面）と  
コンピュータ博物館にアクセスする参加者（右下）

OKITAC system9 シリーズ, FACOM システム 80, USAC システム 11, PC-8001,

**1980年代 (47機種)**: ACOS システム 1000, NEAC システム 50 II, 100 II, 150 II, MELCOM80 日本語シリーズ, if800, HITAC M-280-H, M-382, HITAC E-800, FM-8, MULTI-16, MS190, MELCOM80 OFFICELAND, VP-200, HITAC S-810, PC-9801, DIPS-V シリーズ, S-3000 シリーズ, SX-1, SX-2, B シリーズ, MELCOM70 MX/3000, K シリーズ, USAC 2001 シリーズ, NEC システム 100/58, FM16 β, HITAC M-680H, M-780, MELCOM EX シリーズ, DIPS-11/5E シリーズ, HITAC L-70, 50, 30/5 シリーズ, T-1100, OKITAC system11, X68000, A (エース) シリーズ, MELCOM80 GEO シリーズ, S-820, FM-R シリーズ, PC286 Model0, PC286L, K-600 シリーズ, NEC システム 3100A シリーズ, VP2000, MAXY, if386AX, MELCOM80 GEOC GR ファミリー, HITAC L-700 シリーズ, SX-3, FMTOWNS, DynaBook J-3100ss.

**1990年代 (43機種)**: HITAC M-880, M-1800, DIPS-11/5EX シリーズ, TP90/70, USAC8800 シリーズ, クリエイティブステーション 3050, DS/90 7000, UP4800/520, FT/s シリーズ, apricot シリーズ, FLORA シリーズ, K-6000 シリーズ, s-3000 シリーズ, VPP500, FM R-340SV, NEC オフィスサーバシステム 7200, elles シリーズ, FM V, ACOS PX7800, UX1000/2000, RX7000 シリーズ, Express5800 シリーズ, 98MULTi CanBe, MP5800, VPP700, SR2201, GS8600, FT8000 シリーズ, GRANPOWER 5000,

Prius シリーズ, Libretto 20, GRANPOWER 6000, GRANPOWER 7000, Express5800/600 シリーズ, USAC NetGLOBE9000 シリーズ, PC98-NX シリーズ, FLORA310, SX-5, SR8000, HA8000 シリーズ, MAGNIA3000/5000, FMV-DESKPOWER プリシェ, Prius DECK 610M.

**2000年代 (30機種)**: ACOS i-PX7300, PRIMEPOWER, Entrance シリーズ, PRIMERGY 6000, PRIMERGY, FMV-BIBLO LOOX, DynaBook DB70P/5MC モデル, AP8000, ACOS i-PX7800, SX-6, Express 5800/1160xb, PC-VT1000J, AP7000, GS21 600, 地球シミュレータ, PRIMEPOWER HPC2500, Express5800/420Ma, PRIMERGY BX300, DynaBook SS S4, FMV-DESKPOWER L シリーズ, NX7700/i9510, SR11000, FT8600 シリーズ, ACOS i-PX9000, SX-8, BladeSymphony, PC-VS700, FMV-DESKPOWER T シリーズ, Qosmio E10, FLORA Se シリーズ.

### コンピュータ博物館の閲覧

情報処理学会の Web ページに開設されているバーチャルなコンピュータ博物館<sup>4)</sup>を会場から参加者が直接アクセスして閲覧できるよう6台のノートパソコンを設置した(図-6)。年表の中にある機種のひとつはこのコンピュータ博物館で見ることができる。参加者が、年表やスライドショーで確認した機種をさらに詳しく調べることができるようにしたものである。

この博物館では、我が国の情報処理技術や産業のパイオニアの紹介を掲げるとともに、情報処理年表に関連付けて、歴史的なコンピュータ、部品などの写真と解説が掲載されている。

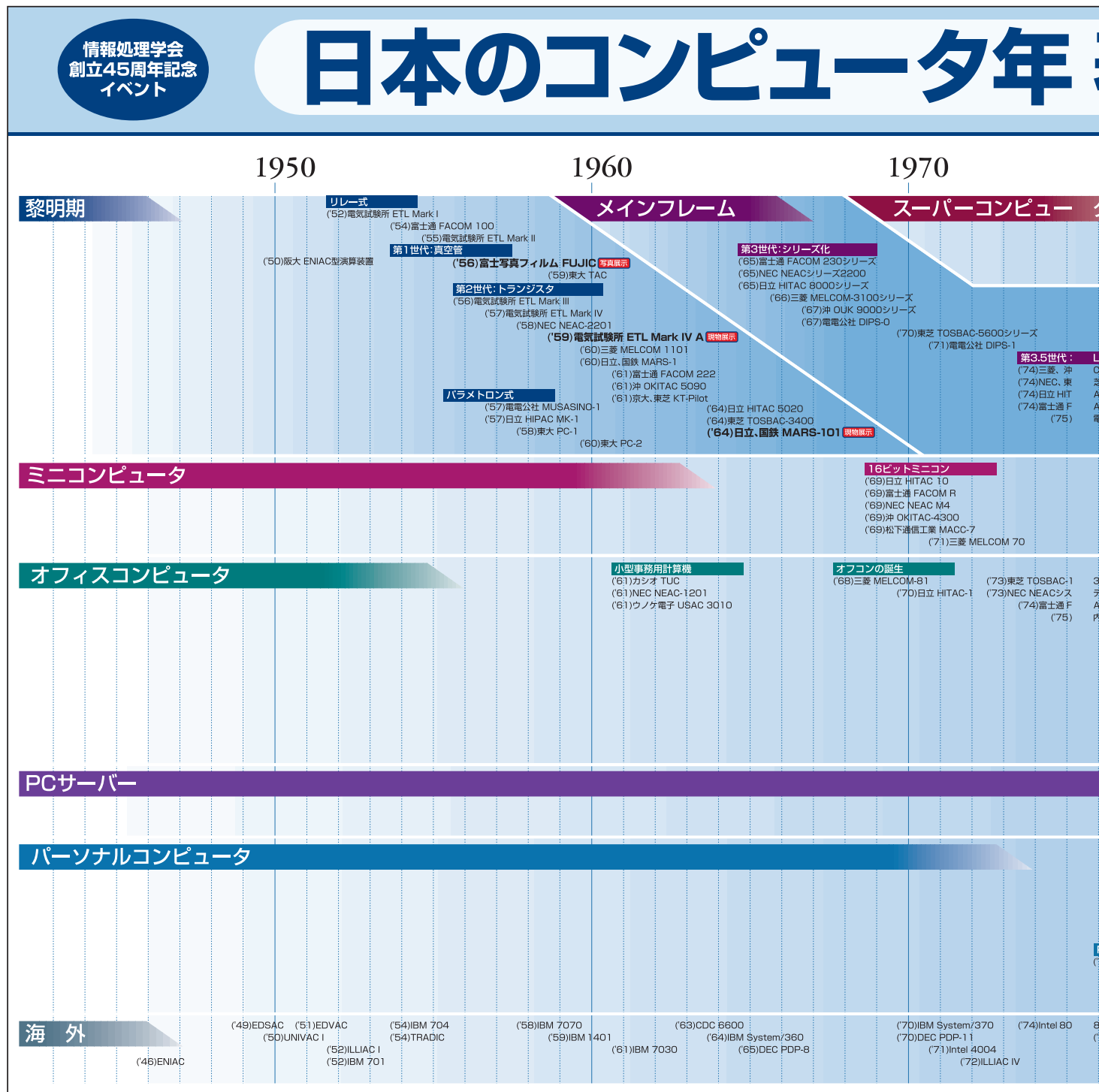
### 成功の裏にWGメンバの努力

筆者は現地の責任者として、実務的な面でこの展示が

参加者にとってどのくらい満足のいくものとなるのか、展示の当日まで不安な気持ちがあった。しかし、その不安は現場で設置された展示物を見て消滅した。特に年表、スライドショー、FUJIC の等倍写真については、想像以上によくできていることに驚いた。

筆者はこの記事を書くにあたり、ワーキンググループのメンバの間で議論されたメールの内容をすべて調べたが、そのやりとりはかなりの量になっていた。限られた

表・1 日本のコンピュータ年表



予算の中で、最大の効果を生む展示を開催できたことに対して、ここにワーキンググループのメンバの氏名(敬称略)を記して敬意を表します。

展示ワーキンググループのメンバ: 土井美和子(東芝), 下間芳樹(三菱), 旭寛治(日立TC), 宇野栄(日本IBM), 櫻井紀彦(NTT), 田中久弥(工学院大), 野水宣良(NEC), 前島正裕(国立科博), 三木良雄(日立), 村野初男(富士通), 森末秀雄(NEC), 山田昭彦(電機大)。

謝辞 今回の併設展示では、特に国立科学博物館の多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして深謝いたします。

参考文献

- 1) http://www.ipsj.or.jp/katsudou/museum/computer/0370.html
2) http://www.ipsj.or.jp/katsudou/museum/computer/0280.html
3) http://www.ipsj.or.jp/katsudou/museum/computer/0110.html
4) http://www.ipsj.or.jp/katsudou/museum/index.html
(平成 18 年 4 月 25 日受付)

日本のコンピュータ生誕50周年記念シンポジウム
Symposium on the 50th anniversary of the birth of Japanese computer

